

学校教育目標 「やさしく、かしこく、たくましい 三根西っ子の育成」



みかわの子

令和8年6月8日

第5号



文責 校長 澁谷 <学校HP>

先日テレビで AI を取り入れた最新の学校の特集が 있었습니다。生成 AI にプロンプト（指示）を出すと莫大な情報を精査し、学習者に有益な情報を集めて提案をします。例えば「みやき町の PR 動画を作りたい。歴史を感じさせるような撮影場所を教えてください」と入力すれば数秒で提示します。スマホに搭載されている AI の CM でも見られるものと同様です。ただし、このテレビの解説員は「AI はまだまだ完璧ではない、誤情報も多い、あくまでも責任は利用者が負うことになる。便利さの裏に落とし穴があることも教えなければ。」と強調されました。教師側の便利な活用法としては児童の学習のつまずきなどを答案や学習プリントなどをカメラで写して AI に読み込ませると、それに合わせて不得意克服用の学習プリントが自動で出来上がったり、データを入力し、「〇〇な学級を作りたい」とか「運動会で勝てるリレーの走順を組み立てて」と指示すれば、学級編成やリレーの走順なども提案できたりするようです。まだまだ不安定なところもありますが、有効かつ安全に活用できる AI が導入されると教師、児童双方に有益なことになると思います。ただ、古いタイプの人間の私には「便利なのはいいけど、実際には児童の教育はそんな簡単にはいかないのに」と思うこともあります。

### 平和の尊さについて講話をしていただきました。



6月3日(木)に佐賀県遺族会代表の佐賀市にお住いの西田 富子様をお招きして平和学習を行い、全校で平和の尊さについて学習しました。日々、報道されている他国の戦争ですが、終結の気配はなく、日本にもその影響がでています。中、高学年の児童は各地で戦争が起きていることを知っているようですが、いかに戦争が悲惨で残酷なものであるかはなかなか実感するのは難しいと思います。今回、西田先生には戦時中には県内でも佐賀空襲や鳥栖空襲があって、多くの方が亡くなっていることや沖縄戦や原爆、防空壕、灯火統制（空襲を避けるために家の明かりを付けられないこと）などについて分かりやすくお話していただきました。お話から「決して戦争をしてはならないことを後世に伝えていかねば」という強いお気持ちを感じられました。私は平和を守るための第一歩は「まわりの人を大切に思うこと、大事にすること」だと考えています。学級の中や地域の中でもそうです。逆に言うと人を大切に思わないこと人の存在を軽視することが多くの争いごとの根源でもあります。1945年の終戦から今年は戦後81年目を迎えますが、今日の講話を聞いて児童が平和のために今の自分ができることを実践できるようになればと思いました。

## 6年生が吉野ヶ里公園で校外学習を行いました。

台風が接近しつつある中での校外学習となりました。私も同行しました。県内外の小中学校（遠くは京都から）が見学や校外学習に来ていました。同公園は最近ではグランピングの施設やカフェも併設されており、歴史公園でありながら、家族や仲間で滞在できる施設としても注目されています。この校外学習では午前中は公園内のフィールドワークを行い、午後は<sup>まがたま</sup>勾玉づくりを行いました。当初は降雨も風もなく順調に進められましたが、予想よりも早く雨が強まり、午後の日程を繰り上げました。その結果、保護者の皆様にはお迎え等でご心配、ご迷惑をおかけしました。すみませんでした。6年生はこれまで家族とここに遊びに来たことはあっても、歴史の学習という意味ではおそらく初めてであり、新たな発見があったのではないのでしょうか。私は展示されていた銅剣がとても精巧に作られていることが印象に残りました。当時は村と村との戦いに使ったようで、発掘された遺跡（遺体）からは銅剣で切られた痕跡が見られるものがあるそうです。この時代から人と人が覇権を争っていたことが分かります。午後の勾玉づくりでは皆、懸命に石を研ぎ石で削ったり、やすりをかけたりしてオリジナルの「勾玉」を作りました。出来栄えに満足していた児童が多く、多くの生徒はひもを通してアクセサリーのようにして首から下げており、その出来栄えにご満悦のようでした。



台風が接近しつつある中での校外学習となりました。私も同行しました。県内外の小中学校（遠くは京都から）が見学や校外学習に来ていました。同公園は最近ではグランピングの施設やカフェも併設されており、歴史公園でありながら、家族や仲間で滞在できる施設としても注目されています。この校外学習では午前中は公園内のフィールドワークを行い、午後は<sup>まがたま</sup>勾玉づくりを行いました。当初は降雨も風もなく順調に進められましたが、予想よりも早く雨が強まり、午後の日程を繰り上げました。その結果、保護者の皆様にはお迎え等でご心配、ご迷惑をおかけしました。すみませんでした。6年生はこれまで家族とここに遊びに来たことはあっても、歴史の学習という意味ではおそらく初めてであり、新たな発見があったのではないのでしょうか。私は展示されていた銅剣がとても精巧に作られていることが印象に残りました。当時は村と村との戦いに使ったようで、発掘された遺跡（遺体）からは銅剣で切られた痕跡が見られるものがあるそうです。この時代から人と人が覇権を争っていたことが分かります。午後の勾玉づくりでは皆、懸命に石を研ぎ石で削ったり、やすりをかけたりしてオリジナルの「勾玉」を作りました。出来栄えに満足していた児童が多く、多くの生徒はひもを通してアクセサリーのようにして首から下げており、その出来栄えにご満悦のようでした。

## 指導力向上のための授業研究会をおこなっています。



私が教員になった35年前は教員の大量採用時代で大規模校には一度に3人の新人が配属されていました。以降、教員の採用が減少し、現在の40歳代の教員は教員になりたくてもほとんど採用がなかった時代でした。よって県内でも40歳代の教員は非常に少ないです。これからいわゆるバブル世代が大量に定年を迎えます。さらに再び教員の採用増となるでしょう。本校においても担任の多くは若手教員です。学校としては特に中堅～ベテランの教員のこれまで培ってきた指導技術を若手へ伝承することが不可欠です。我々教員にとって授業は生命線です。校内においても互いに授業を見て、批評しあい、自身の授業に取り入れることで指導力を高めています。校長としては授業の構成はもちろんですが、ちょっとした児童への声の掛け方一つや黒板のまとめ方、プリント作り方でガラッと児童内容の理解度は高まります。ここは若手教員に学び取って習得してほしいところです。そこで時折、本校教員も他の学校に出向き、指導スキルの高い教員の授業を見て勉強することもあります。先日は、校内で本校のM指導教諭の6年生の算数「分数×分数」の授業を皆で見て、授業後に研究会を行いました。写真はその研究会のもので、この日は本校の校内での研究テーマである「自分の考えを表現し、学びを深める児童の育成」について理解を深めるため東部教育事務所から野口指導主事を招き、指導助言をいただきました。互いに研鑽を深め、児童から「先生の授業は面白い、分かりやすい」という感想が聞かれるようにしていきたいと思っております。